

聖地のこどもニュース

# オリーブの木

No. 65

2017年 8月



「平和の架け橋 in ヒロシマ」プロジェクトでの一コマ。原爆ドームの前で。

イスラエル・パレスチナ・日本の若者の交流を目指す「平和の架け橋」2017 プロジェクトが、8月17日、多くの実りを持って終わりました。今回は、2005年の最初のプロジェクトと同じように広島での平和祈念式典に参加し、平和とは何かを考える原点に立つことからスタートしました。その後は長野善光寺玄證院の宿坊で3カ国共同生活をし、東京では広島、長野の体験を振り返って、対話の機会を持つことの大切さを考えたことでしょう。

彼らの故郷では、エルサレムのユダヤ、イスラム両宗教の聖地の管理をめぐるせめぎ合いがイスラエル、パレスチナ間の緊張を高めています。和平へ向かう対話と交流の可能性など見出せそうにない空間に、日本から戻った若者たちの声は容易には響かないかもしれません。それでも広島と長野で生まれた交流の芽がわずかでも花開くことを期待します。

村上 宏一 (副理事長)



認定NPO法人

## 聖地のこどもを支える会



当NPOは、国際協力NGOセンター (JANIC) によるアカウンタビリティ・セルフチェックを受け、基準の4分野 (組織運営・事業実施・会計・情報公開) について適正に運営されていると審査されました。

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-7-502 **Email** [ispalejpn@gmail.com](mailto:ispalejpn@gmail.com) **TEL/FAX** 03-6908-6571

ご支援は… 郵便振替 **00180-4-88173** 加入者名 「NPO法人 聖地のこどもを支える会」

当法人へのご寄付は、税制優遇が受けられます。

<http://seichi-no-kodomo.org>



8月6日、広島城二の丸跡に残る被爆樹木の見学ツアー。

### 被爆地を訪れた若者たちの 平和への目覚め

イスラエル・パレスチナ・日本の若者たちの平和プロジェクトは今その第一段階を終えようとしている。8月4日から7日までの広島滞在期間中、たくさんの方々のご協力をいただいた。とくにカトリック広島教区、NGO「ANT-Hiroshima」、広島女学院大学のお陰で、充実したプログラムとなった。

平和祈念式典への参加、核兵器の非人道性を生々しく伝える「広島平和記念資料館」見学をはじめ、子どもたちが演じるミュージカル「Pray」（原爆の悲惨さを伝え、平和な世界の実現を目指す希望と優しさに溢れた創作劇）を鑑賞した。この創作劇には、先日105歳で亡くなられた日野原重明先生も生前深く関わられ、子どもたちに命の尊さを教えて下さったそうだ。

他にも、被爆者の体験を英語で聴き、「命」の力強さを感じさせる「被爆樹木」の見学をし、カトリック広島教区の主催する、平和公園からカテドラルまでの「平和行進」にも参加した。最高気温38度、湿度70%以上という耐えがたい状況だったが、みんなよく頑張った。

平和学習で広島に滞在中の学生たちと共同で平和のために祈るなどの交流プログラムは、どれも若者たちの心を揺さぶり、平和のために働く必要を強く感じさせた。

私は中でも広島女学院大学での礼拝に注目したい。その中で、パレスチナから「平和を願うパイプオ

ルガンの響き」として、プロジェクト・リーダーの一人、ヤクーブ・ガザウィがオルガン演奏する機会をいただき、またイスラエル・パレスチナ・日本の若者がそれぞれ平和のメッセージを発信する機会をいただいた。特に胸に響いたのは、主式をされた沢村牧師先生のお話であった。「人は昔から『平和をつくるために戦いに備えよ』という。何と矛盾した話だろうか。『もう一つの道』(the alternative)『変革の道』(the change)はないのだろうか?その道を見つけて歩むことこそ、未来を担うあなた方のつとめではないだろうか?」

プロジェクトは、長野での共同生活を経て東京へと移り、参加者全員で平和への「もう一つの」道を見出す旅を続ける。

(プロジェクト報告書を11月下旬に発行予定です)



広島女学院大学チャペルで、他大学の学生たちと共に「平和の祈り」。ヤクーブ・ガザウィがオルガンを演奏中。

## 認定NPO法人聖地のこどもを支える会の 会員になりませんか?

さまざまなプロジェクトをはじめ、教育支援事業など、当会の活動を総合的に支えていただく会員制度。あなたのご意見が、平和のつくり手を育てます。事務局までお気軽にお申し出ください。

正会員	個人	年額 12,000円/1口
	学生	年額 6,000円/1口
サポート会員		年額 6,000円/1口

正会員は、当法人の総会等での議決権を行使することができます。



## 出川展恒氏講演会『混迷する中東情勢を読む』

NHK解説委員・出川展恒氏による講演が、今年も7月2日、東京都武蔵野市のカトリック吉祥寺教会で開かれました。過激派組織「イスラム国 (IS)」のイラクの拠点モスル陥落が近いとみられ、事態の急変に備えて泊まり込みが続くなど忙しい中、来ていただきました。講演の要旨を紹介します。

んでした。西岸への入植活動の凍結をイスラエル側が受け入れなかったからです。

占領地での入植は国際法違反であるだけでなく、将来のパレスチナ国家の領土が侵食されることです。アッバス議長は国際世論にアピールし、交渉再開への切り札のつもりで国連への加盟を申請しました。しかし、イスラエル寄りの政策を崩さないアメリカが安保理で拒否権を行使。それではとアッバス議長は2012年、拒否権が通用しない国連総会に「オブザーバー国家」としての承認を申請、認められました。日本を含む138カ国が賛成、イスラエル、アメリカなど9カ国が反対、棄権41でした。賛成国の大半がパレスチナ国家を承認してはいるものの、まとまった領土を持たない名ばかりの国家です。

### ▼トランプ氏の中東政策

アメリカの新大統領トランプ氏は就任間もない今年2月、ネタニヤフー首相との会談で「二国家」にこだわらない姿勢を示しました。これにはアッバス議長が「和平実現は不可能」と反発、グテーレス国連総長も「二国家以外の解決策は考えられない」と批判しました。閣内に極右勢力を抱えるネタニヤフー首相は、パレスチナが完全な主権国家となることに反対で、トランプ発言を「イスラエルに理解を示すもの」と歓迎しています。

入植問題ではトランプ氏は「少々控えてほしい」と発言してはいますが、基本的には反対していません。また、三宗教の聖地が混在する東エルサレムの地位が確定していないため、全エルサレムを首都とするイスラエルの主張は国際的に受け入れられていないにもかかわらず、米大使館のエルサレム移転に言及しています（現在はテルアビブに存在）。



### ▼中東和平の現状

1993年のイスラエル、パレスチナの歴史的な自治合意で期待された和平合意は、交渉も中断したままで報じられることもほとんどなくなっています。パレスチナ問題が解決しないと、中東の安定は来ません。アラブ諸国にとって同胞のパレスチナ人が占領下にある限り、イスラエルとの和解はないし、イランにとってもイスラムの聖地がイスラエルに占拠されていることは許されない、などの理由からです。

1967年の通称「六日戦争」でイスラエルに占領されたヨルダン川西岸とガザにパレスチナ自治区を設け、和平交渉を進めるとしたのが暫定自治合意、いわゆるオスロ合意です。その最終目標はイスラエルとパレスチナの「二国家共存」です。しかし交渉は相互不信や暴力でしばしば中断。1995年11月、和平実現に積極的だったラビン首相が、極右のユダヤ人に暗殺されたことで和平の流れは変わりました。

アメリカのオバマ前大統領は中東和平を重視し、2010年9月にイスラエルのネタニヤフー首相、パレスチナ自治政府のアッバス議長と会談して交渉を再開させましたが、交渉の機運は1カ月ともちませ



スライドを使用しての講演。100名以上の方が参加されました。

このようにイスラエル一辺倒がトランプ政権の基本姿勢でありながら、ネタニヤフー、アッバス両首脳と和平合意実現に努力したいとしています。しかし具体的なプランは示されず、明確な和平戦略があるのかわかりません。

### ▼和平プロセスをどう動かすか

イスラエルでの最近の世論調査で、国民の60%以上が「西岸は占領地だと思っていない」と答えたそうです。1967年以後に生まれた「戦後」世代は、イスラエルが戦争で占領したことを教えられない中で、西岸は元々イスラエルの土地だと思っているわけです。しかもパレスチナとの境界に建てられた壁で確かにテロが激減し安全になっているため、「このままでいいじゃないか」との考え方が広がっており、和平の機運が失われつつあるのです。

では、和平プロセスを動かすにはどうしたらいいのか。まず、暴力を食い止めねばなりません。二国家共存論の再生も必要です。それに、オスロ合意以外の和平に向けた枠組が必要です。それができるまでは入植地の拡大を中止するなど、現状を凍結しなければなりません。

二国家共存ができないと、どうなるでしょう。パレスチナを占領下に置き続けるのか、あるいはガザのように西岸も完全に封鎖し巨大な刑務所のようにす

るのか、それともイスラエルに統合してしまうのか。その場合、パレスチナ人はユダヤ人と同等の市民権は保証されず、二級市民として、かつての南アフリカのようなアパルトヘイト状態になるでしょう。

和平プロセスが再び動き出すためには、両民族の市民レベルでの信頼醸成が大切です。その意味で「聖地のこどもを支える会」の活動は、遠い道のりではあっても、意義あるものだと思います。

### ▼日本にできることは？

二国家共存へ向けた新しい枠組を主張し、入植を阻止することが日本の役割だと思います。また、パレスチナを国家並みに扱う一方で、西岸とガザに分断された状況の解消を働きかけるべきです。ガザを実効支配しているイスラム原理主義組織ハマスは、2006年の議会選挙で多数の議席を得ており、自治運営のプレイヤーとして認められるべき存在です。ハマスには暴力的抵抗をやめるよう働きかけ、イスラエルにはガザの封鎖解除を働きかけること。封鎖状態は住民の過激化を進める温床です。日本が医療、教育などで支援をすることは、この状態を緩和するのに役立つでしょう。（構成・村上宏一）

出川展恒（のぶひさ）氏：1985年、NHK入局。91～92年テヘラン、94～98年エルサレム、2002～06年カイロの各支局長を経て06年7月から中東・アフリカ・イスラム地域担当の解説委員を務める。

## イスラエル・パレスチナ・日本 友好のつどい



7月17日、『イスラエル・パレスチナ・日本 友好のつどい』を東京・四谷のニコラ・バレ修道院にて開催しました。

事務局によるプロジェクトの紹介でいっそうの支援を呼びかけたあと、第1部では出口誠ジャズメッセンジャーズのピアノトリオのコンサート、第2部で

は、東京・神田『アルディワン』のアラブ料理ビュッフェが供され、楽しいひとときとなりました。イスラエル・パレスチナグッズのバザー・コーナーもあり、エキゾチックな暮らしに思いをはせていただく機会となりました。約70名の方が参加されました。

（佐藤 克裕）

# ハマスを和平交渉の当事者にする決断はないのか

村上 宏一（当法人理事・元朝日新聞中東アフリカ総局長）

少し前の話になりますが、今年5月3日の朝日新聞に載った「ハマスの柔軟路線を示唆」という見出しの記事が目にとまりました。パレスチナの対イスラエル強硬派でイスラム原理主義組織のハマスが「闘争する相手はユダヤ人全体ではなく、パレスチナを占領するユダヤ人だ」とする新政策を発表したというものです。海外の主要メディアは「ハマスが初めて1967年以前の境界内でのパレスチナ国家を受け入れる」という内容の見出しで報じています。どういったところがニュースなのでしょう。

ハマスについては何度か触れてきました。1970年代から80年代を中心に対イスラエル武装闘争を主導していたパレスチナ解放機構（PLO）主流派ファタハに対し、イスラム主義を高く掲げて1987年末に発足した組織です。88年の憲章で「全パレスチナの地は神聖である」とし、そこを占拠しているイスラエルから解放するために「全パレスチナ人はジハード（聖戦）に立ち上がるべきだ」と宣言しました。

この、イスラエルを認めず暴力で解放を目指すという主張、そして軍事部門が実際に自爆テロなどを実行してきたことを理由に米国、EUなど多くの国からテロ組織に指定され、パレスチナ人の代表として認められずにいます。それが今度発表された新政策では「1967年以前の境界」つまり、1948年にイスラエルが独立を宣言しアラブ諸国と戦った第1次中東戦争の停戦ラインを境界とするパレスチナ国家を受け入れてもいい、と表明したのです。これまでの、67年の第3次中東戦争でイスラエルが占領した地域だけでなく、イスラエルそのものの領地も解放の対象だという主張に比べると、やや軟化した表現です。

ではイスラエル国家を認めたかということ、そうではなく、対イスラエル闘争を放棄するものではないとしています。ただし、闘争の相手はユダヤ人全体ではなく、ユダヤ人国家をつくるためにパレスチナを占領するユダヤ人だ、としており、そのことも合わせて柔軟路線へと転じる可能性を示している、と受

け止められているのです。

ハマスは自治区の国会に相当するパレスチナ評議会の2006年総選挙で過半数の議席を獲得。ファタハとの連立内閣に参加し首相を出しました。ところが欧米諸国など援助提供国は、ハマスがイスラエルの承認、暴力の放棄などを約束しない限りハマスが参加する自治政府への資金援助を減らすか打ち切る、と警告したのです。自治政府のアッバス議長は07年、非常事態を宣言し、ハマスを排除した内閣をつくりました。ガザ地区で優勢なハマスが軍事的にファタハを圧倒してきたのを機に、国際社会に受け入れてもらえるファタハによる政府をつくった形です。これに対しハマスは、実力でファタハを追い出してガザを支配。ファタハの西岸、ハマスのガザという現状ができてしまいました。

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロをきっかけに、ブッシュ米大統領（当時）が掲げた「対テロ戦争」は、「テロ組織」と決めつけた相手にはどんな手段でつぶそうとしても構わない、という風潮を広げました。ハマスの攻撃に対しイスラエルが侵攻した14年の「ガザ戦争」は、ハマスを叩きを理由に多くのガザ住民が犠牲になり、集団的な懲罰を受けた形です。

イスラエル政府が「イスラエルの存在を認めず、暴力を容認している」として交渉の相手と認めないハマスを、多少軟化の姿勢を見せたからといって受け入れることはないでしょう。しかし、国際社会もハマスに対し柔軟な対応をする必要があるという声も、中東研究者らの間から聞こえてきます。イスラエル、パレスチナいずれにも偏らない論評で定評のある立山良司・元防衛大学校教授は「ガザからハマスを排除できない以上、ハマスの声に耳を傾ける方法を探るべきだ」と主張します。ハマスは医療、福祉などでの地道な活動で民衆の間に支持を広げており、イスラム国（IS）のような無法な集団とは異なると見ていいでしょう。

かつて黒人差別のアパルトヘイト政策を続けていた南アフリカでは、白人政権のデクラーク大統領



# 東エルサレムの教育課題

元当法人理事 石黒朝香

国連開発計画 (UNDP) パレスチナ人支援プログラムのプログラムアナリスト。現在エルサレム勤務。

が、暴力に訴えての闘争をしていた黒人抵抗運動の指導者マンデラ氏と民族融和の握手をしました。英国では、北アイルランドの独立を目指してテロを含む血なまぐさい闘争を続けたアイルランド共和軍 (IRA) と、英国政府が和解した例もあるように、武装闘争をしていた勢力が政治交渉の相手となることが歴史上には見られます。

1993年のイスラエル・パレスチナ自治合意 (オスロ合意) も、当時イスラエル首相だった故ラビン氏が、イスラエルに対する武装闘争を続けていたPLOとの和解に踏み切ったものでした。ラビン氏は、ユダヤ人の生存権のためとはいえアラブ人が住んでいるパレスチナの地に国をつくろうとして自分たちが入ってきたのが紛争の起源であり、そのことを認識している自分たちの世代が解決しなければならない、と覚悟したのです。歴史的決断があったからこそ、暴力でイスラエルに敵対してきたPLOのアラファト議長と、渋々ではあっても握手したのです。

武力でパレスチナをイスラエルから解放するという主張を理由に、和平交渉の当事者として認められていないハマスも、いずれ交渉の席に着く時が来ないとは限りません。多少なりとも柔軟な方針を示したハマス側にも、国際社会に受け入れられる可能性を探る姿勢が出てきたのかもしれない。

パレスチナの教育普及率は、他の途上国と比べて比較的高い傾向にあります。2016年の統計によると、識字率は96.9%、初等教育普及率は95%を誇ります。男女間の差別もまだ見受けられるものの (男性の非識字率1.5%、女性5.2%)、他のアラブ諸国と比較し、その差別度合は小さく、パレスチナ社会が男女問わず、どれほど教育を重視しているかを物語っているといえます。

とはいえ、教育事情に何も問題がないというわけではありません。特に東エルサレムでは、イスラエル・パレスチナ紛争の核となるエリアであるがゆえに、双方がその統治を主張し、統一された教育制度さえ整っておらず、子どもたちに困難を強いています。東エルサレムでは現在いくつかの異なるタイプの学校が運営されています。学校数として最も多いのは私立学校です。次に多いのは、エルサレム教育局 (Directorate of Education in Jerusalem) が管理するいわゆるパレスチナの公立学校で、最も多くの生徒数を受け入れています。また難民キャンプでは、パレスチナ難民支援機関であるUNRWAが学校を運営し、その他にイスラエルのエルサレム市当局が運営する公立学校と、非公認団体による学校もあります。

東エルサレムの学校が抱える問題のひとつは、教室数の不足とその劣悪な環境です。2013年の調査によれば、資金不足や、当局から建築および運営許可がなかなかおりないことから、およそ2200の教室が不足しています。同じ理由で、建物のメンテナンスが行き届かず、存続が危険な状態にある学校や、住宅の建物などを賃借せざるを得ない学校など、授業を行う環境が整っていない状況も報告されています。

したがって、公立学校では、一クラスあたりの定員オーバーが慢性的になっており、閉校の危機に直面している学校もあります。少しでもお金に余裕がある家庭は私立学校に子どもを送らざるを得ず、実質的に無償教育を受ける機会を奪われていて、高額な授業料を払わざるをえません (注)。さらに、初等

## 支援金の自動払込みサービス

ご好評を頂いている自動払込みサービス。まだの方はぜひご利用ください。

- \* 毎回 郵便局へ払込みに行く手間が省けます。
- \* いつからでも、いくらからでも簡単に始められます!

お申込み・お問合せは

当法人事務局 **03-6908-6571**

または **042-636-9218** (中山)

# 日本の支援者の 皆さま、ありがとう!

おかげさまで、この1年間、延べ85名の生徒が学校へ通うことができました。

所在地・学校名	支援できた 生徒数
●エルサレム	
聖ディミアナコプト学院	13
聖ヨゼフ学院	10
聖ディミトリオス スクール	9
テラ・サンクタ学院	7
フレレスクール	4
聖ジョージ学院	4
聖タルクマンハス学院	4
オリーブ山学院	2
バスマ王女学院	2
シュミット学院	2
スパニッシュスクール	2
聖チャールズ幼稚園	2
●ラマッラー	
エバンゲリカル・ルーサーラン学院	2
ラテン教区学院	1
●ベツレヘム	
エフェタ視聴覚障害者スクール	10
エルサレム学院	3
● Beit-Jarrah	
聖アフラム学院	5
タリタ・クミスクール	2
希望学院	1
合 計	85

教育資金が不足しています  
一層の支援をお願いいたします

## 顔の見える支援 里親募集中!

ある特定の子どもの教育を、毎月一定の支援金で継続的にサポートする里親制度。一歩進んだ国際協力のかたちです。

里親と里子の間で、写真や手紙の交換をすれば(任意)、個人的なつながりが持て、子どもの成長を身近に見守ることができます。

詳しくは、当法人事務局まで。

教育の普及率は高レベルを維持できていても、中等教育になると退学率が上がり、およそ36%の東エルサレムの青少年が12年生(高校3年生に相当)までを終了できないと指摘されています。

国連開発計画(UNDP)パレスチナ人支援プログラムは、1978年に国連総会でその設立が可決され、パレスチナ自治区(ヨルダン川西岸地区、東エルサレム、ガザ地区)で活動を行っています。教育分野の支援も活動重点分野の一つです。これまでに東エルサレムにおける学校建築や修復の事業を通して、より多くの子どもたちができるだけ整った環境で教育を受けられるよう尽力してきました。一例を挙げると、ノルウェー政府の支援を受けて2016年に実施されたプロジェクトでは、東エルサレム北部のベイト・ハニーナ地区に学校が建築されました。この地域は、東エルサレムの中でも特に学校整備を必要としている地域の一つで、既存の建物を改築し、パレスチナの公立男子校として合計740人の生徒の受け入れを可能にしています。今後もこうした、サポートを拡大していく他、質の向上に向けて他の国際機関とともに協力していく予定です。

紛争地では、最も大きな影響を受けるのは子どもたちです。次世代を担う彼らが、将来への小さくとも確固とした希望の灯を持ち続けるために、しっかりした教育を受けることが、どれほど重要課題であるか、いうまでもありません。

この文章に含まれた見解は筆者の個人的なものであり、国連開発計画を代表するものではありません。

(注1)

聖地における私立学校の教育の質やレベルは高く、また豊かな人間教育を行っています。当 NPO 法人では、次世代を担う児童や青少年が一人でも多く良質の教育が受けられるように、授業料の一部負担を行っています。(当法人事務局)

# 2017年度 総会のご報告

当法人の総会が去る6月18日15時～17時に行われ、  
2016年度の事業報告書及び収支決算書、  
2017年度の事業計画書と予算書について承認されました。

## 2016年度 活動計算書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(単位:円)

【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	430,000	
賛助会員受取会費	7,545,394	7,975,394
【受取寄付金】		
受取寄付金	2,226,230	
施設等受入評価益	168,000	
ボランティア受入評価益	56,000	2,450,230
【受取助成金等】		
受取助成金	17,451	
受取補助金	501,072	518,523
【事業収益】		
参加料金収益	3,247,400	
自主事業収益	421,842	3,669,242
【その他収益】		
受取 利息	32	
為替 差益	30,024	
雑 収 益	91,672	121,728
経常収益 計		14,735,117
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給料 手当(事業)	1,718,100	
ボランティア評価費用	56,000	
通 勤 費(事業)	4,674	
人件費計	1,778,774	
(その他経費)		
業務委託費	243,238	
諸 謝 金	960,037	
印刷製本費(事業)	544,069	
会 議 費(事業)	173,306	
旅費交通費(事業)	607,847	
旅費海外(事業)	2,884,946	
車 両 費(事業)	41,166	
通信運搬費(事業)	732,621	
消耗品 費(事業)	210,176	
賃 借 料(事業)	135,340	
施設等評価費用	168,000	
保 險 料(事業)	7,259	
支払手数料(事業)	31,443	
支払助成金	2,000,000	
支払寄付金	43,288	
雑 費(事業)	44,828	
その他経費計	8,827,564	
事業費 計		10,606,338

【管理費】		
(人件費)		
役員 報酬	900,000	
給料 手当	807,500	
法定福利費	56,529	
通 勤 費	208,370	
人件費計	1,972,399	
(その他経費)		
印刷製本費	117,006	
会 議 費	17,989	
旅費交通費	40,734	
通信運搬費	199,180	
消耗品 費	141,385	
水道光熱費	86,640	
地代 家賃	765,300	
賃 借 料	4,000	
広告宣伝費	366,772	
諸 会 費	43,500	
租税 公課	1,803	
支払手数料	123,778	
その他経費計	1,908,087	
管理費 計		3,880,486
経常費用 計		14,486,824
当期経常増減額		248,293
【経常外収益】		
経常外収益 計		0
【経常外費用】		
過年度損益修正損		124,464
経常外費用 計		124,464
税引前当期正味財産増減額		123,829
経理区分振替額		0
当期正味財産増減額		123,829
前期繰越正味財産額		1,267,013
次期繰越正味財産額		1,390,842

【活動計算書の注記】自主事業収益には、イベント収益を含む



# 支援団体・支援者のお名前

教育にご支援くださった皆さんです。

2016年4月1日～2017年3月31日（敬称略 匿名希望の方のお名前は省かせていただきました。）

## 支援団体

NPO国際協力NGOセンター  
PROJECT.etc.JP  
医療法人 かどもと眼科  
栄光学園 愛の運動委員会  
援助修道会 管区本部  
援助修道会 六甲修道院  
御受難修道女会  
大阪聖ヨゼフ宣教修道女会箕面修道院  
幼き聖マリア修道会  
カトリック金剛教会  
カトリック高千帆教会  
カトリック鷲沼教会内古着プロジェクト  
カトリック松原教会  
カトリック松戸教会 コスモスの会  
カトリック松戸教会マリア会代表浅井明子  
カトリック碑文谷教会  
カトリック百合ヶ丘教会コーヒーコーナー  
カトリック富良野教会  
カトリック片瀬教会  
カトリック北浦和教会  
カトリック名瀬教会  
カルメル修道会 聖ヨゼフ修道院  
カルメル修道会カルメル山の聖母修道院  
カトリック吉祥寺教会マリア会国分寺地区  
吉祥寺教会聖地のこどもを支える会  
木村 洋行(株)  
ケベック・カリタス修道女会本部修道院  
厳律シトー会天使の聖母トラピストチヌ修道院  
厳律シトー会灯台の聖母トラピスト大修道院  
厳律シトー会那須の聖母修道院  
サレジオンシスターズ管区本部  
ショファイユの幼きイエズス修道会  
宗教法人カトリックイエズス会  
殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会  
聖アンナこどもの家園児一同  
聖ドミニコ宣教修道女会 坂出聖マルチン修道院  
聖ドミニコ宣教修道女会 松山修道院  
聖フランシスコ病院修道女会 姫路修道院  
聖ベネディクト女子修道院  
聖ベルナルド女子修道会  
聖体奉仕会  
聖地産品展示係  
聖母奉献修道会  
絶えざる御助けの聖母信心会  
十勝カルメル会修道院

東京カルメル会 女子修道院  
ドミニコ会 聖ヨゼフ修道院  
長崎純心聖母会  
日本キリスト教団 白鷺教会  
日本キリスト教団 巣鴨ときわ教会  
日本基督教団 まぶね教会  
ノートルダム学院小学校 ボランティアサークル  
福音史家聖ヨハネ布教修道会  
ベタニア修道女会 江古田修道院  
マリアの御心会  
マリアの宣教者フランシスコ修道会  
目黒サレジオ幼稚園  
汚れなきマリアのクラレチアン宣教修道女会  
横浜雙葉小学校  
レデンプトリスチン修道院

(60団体 順不同)

## 支援者

Dr. SOLOMON	伊藤 信歳	石澤 雅士
Harvey Paul A.S.	伊藤 多恵子	泉 知子
アレン 玉井 光江	伊藤 裕幸	池永 廣美
アントニオツゲル神父	井口 美紀	池端 千代
阿部 圭子	井手 雄一	板橋 虎徹
阿部 幸子	井上 ちひろ	飯塚 和彦
阿部 初音	井上 英彦	飯田 ルナ
芦川 恵美子	井上 弘子	飯島 喜久江
安藤 眞樹	井上 静子	臼井 信子
荒川 淑	井上 千賀子	浦田 むつみ
秋山 佳世子	磯部 雅子	上西 博
新 直己 神父	磯部 起与子	植松 敦子
新井 栄一	稲垣 純	梅原 彰
新居 孝彦	家田 紀子	栄林 ヒサ子
青山 美恵子	乾 盛夫	遠藤 寛子
赤崎 克俊	岩永 千代子	遠藤 久夫
浅沼 誠子	岩下 直子	遠藤 恵美子
相川 栄蔵	岩崎 正幸	遠藤 幸子
相葉 清美	岩田 卓三	遠藤 香恵子
相良 敦子	岩本 央子	江波戸 晴夫
天田 雄次	岩本 憲嗣	奥村 聡
有田 美江	五十嵐 洋枝	岡 晶子
有馬 啓介	市川 黎子	岡島 順子
イル 神父	石井 直子	岡部 浩典
伊東 越朗	石館 要	桶屋 理恵子
伊東 止女子	石原 淳一	小坂田 さち子
伊藤 英樹	石黒 朝香	小川 千枝子
伊藤 勝子	石川 ゆかり	小川 泰弘

小谷野 泰	川口 栄子	小林 裕子	高橋 和子	天明 恭子
小田 淳	川口 節子	輿石 修古	高山 早代	出川 展恒
小嶋 光恵	川崎 伸明	郷家 かな江	高瀬 紀子	外山 憲子
小嶋 則子	川上 貢一	五味 美香子	高瀬 将章	戸澤 華江
小野 佐代子	川村 栄子	後藤 幸	高石 俊子	得田 照
小野 修	川村 宏子	後藤 秀次	高田 留奈子	富田 道代
小野田 さよ	川村 直道	後藤 礼子	高島 文枝	戸井 利子
小澤 知江子	川嶋 治彦	佐々木 郁子	高島 友子	土肥 泰子
太田 輝男	川嶋 範子	佐々木 ふみ子	高馬 和子	永吉 恵子
太田 晴子	川平 俊子	佐々木 百合子	高平 たつみ	永廣 ひろみ
大屋 和江	川本 和子	佐多 保彦	高野 千草	永淵 昭枝
大森 アヤ子	榎谷 紀子	佐渡 一邦	城 トミ子	中井 さつき
大森 いくえ	門口 敏子	佐藤 光子	鷹鷲 達衛 神父	中山 宏
大西 美恵	京極 由理子	佐藤 克裕	谷 弘子	中山 夕里亜
大西 茂雄	切田 トシ	佐藤 俊彦	谷 陽美	中西 幸太郎
大蔵 俊三	北 達夫	佐藤 美津子	谷口 裕貴	中村 ミツノ
大谷 恵美子	北垣 朋絵	坂本 雄郎	谷山 正恵	中村 季子
大幡 順子	北垣 陽子	阪井 恭子	丹呉 喜美子	中村 寿美
大部 優	北原 豊子	桜井 房子	竹井 雅子	中村 満
大野 直美	北楯 暢子	西藤 幸子	竹原 芳子	中田 芳雄
大和田 晶子	北島 房子	斉藤 直子	竹川 典秀	中島 紀史子
大澤 由紀子	木村 浩之	塩原 いね子	竹脇 美帆子	中島 敏夫
大賀 昭雄	木村 治子	宿澤 恵子	田口 幾子	中本 徹信
尾島 純子	木村 靖子	清水 順一	田口 穰一郎	中本 由希子
加地 貴美子	栗田 健治	島田 ミサオ	田山 里子	中里 光代
加藤 喜代子	久保 千鶴子	島田 みち子	田制 則子	長井 外美子
加藤 恵子	栗原 健	白井 美代	田制 忍	長倉 禮子
加藤 千恵子	栗栖 徹	白岩 博子	田川 照子	長坪 光
加藤 由実子	栗林 淳二	白水 明代	田村 久恵	長野 楽
河村 眞理子	工藤 昭子	神野 裕美	田中 三郎	長野 浩二
河田 隆子	国峰 恵子	須田 茂乃	田中 伸枝	内藤 歌子
河野 順子	黒滝 津哉子	菅原 静子	田中 翠	内藤 圭之
柿崎 ゆか子	倉田 昌子	鈴木 絢子	田中 節子	内藤 千恵
柿添 正男	維康 さちほ	鈴木 志帆子	田中 博	難波 希和子
笠松 仁美	近藤 加奈子	鈴木 典子	田島 久仁子	蕪木 直江
榎谷 健	古和田 喜昭	鈴木 登喜子	武井 範子	蕪木 利夫
葛西 咲子	胡 美喜子	鈴木 道子	武田 七七子	西原 玉子
釜谷 公子	光藤 操	鈴木 敏博	立脇 和夫	西村 拓生
鎌田 まさ子	小出 宏子	関 安幸	伊達 由美子	西田 百合子
鎌田 英明	小西 一枝	関口 素子	角田 和子	二宮 広子
栢森 雅子	小西 羊一	瀬川 眞佐子	槌本 和子	野口 紀世子
瓦 妙子	小牧 寿子	橘 幸子	塚田 道子	野口 裕之
金子 由佳	小柳 栄	玉木 美都江	辻 美佳子	野村 孝弘
金澤 良子	小林 寛治	建部 正秋	土屋 道子	野村 泰樹
勝原 孝子	小林 藤子	高橋 泉	寺田 京子	野村 智美
菅野 滋子	小林 美紗子	高橋 佳代子	手嶋 直美	野田 健太郎



- |          |              |          |         |            |
|----------|--------------|----------|---------|------------|
| 野田 征子    | 薩田 寿隆        | 松岡 美也子   | 村上 宏一   | 杠 隆志       |
| 早川 昌江    | 深津 利子        | 松原 勉     | 村上 則子   | 横沢 文子      |
| 英 隆一朗 神父 | 深田 久子        | 松山 純子    | 村瀬 バシリサ | 横道 たきよ     |
| 花田 俊信    | 深堀 柱         | 松山 律子    | 守口 毅    | 横道 昭光      |
| 華山 京子    | 深澤 恵子        | 増満 由美子   | 森本 俊子   | 吉川 英子      |
| 橋本 和子    | 藤井 明子        | 馬越 由美    | 森本 明子   | 吉川 八重子     |
| 原 桂子     | 藤原 伸子        | 馬嶋 共栄    | 安川 三保子  | 吉村 糸子      |
| 原科 節子    | 藤原 真理子       | 牧瀬 翠     | 山口 千里   | 吉田 とし子     |
| 原田 佳子    | 藤村 栄三郎       | 眞下 まゆみ   | 山口 裕子   | 吉田 恵子      |
| 刃田 トシ    | 藤田 能孝        | ミリアーノ 末峰 | 山田 康子   | 吉田 純子      |
| 波多野 輝栄   | 福井 潔         | 宮川 園絵    | 山田 真理子  | 吉田 友一      |
| 半田 和巳    | 福崎 康代        | 宮倉 満子    | 山田 千秋   | 米嶋 洋子      |
| 服部 英子    | 福瀬 くに子       | 宮田 靖子    | 山内 亨子   | 米林 慶子      |
| 葉山 文子    | 福村 要子        | 溝口 泰子    | 山内 春治   | ラザフォード 貴美子 |
| 林 一江     | 福田 幸子        | 溝口 由美子   | 山本 佳子   | 渡辺 礼子      |
| 林 香保里    | 福田 幸子        | 三好 和枝    | 山本 貴弓   | 渡部 美佐子     |
| 濱中 智子    | 福田 青柳        | 三上 成子    | 山本 恵美子  | 渡部 朋子      |
| 平井 真由美   | 福島 暁和        | 三須 光好    | 山本 幸子   | 渡辺 こずえ     |
| 平賀 徹夫 司教 | 細谷 彬         | 三宅 英美子   | 山本 純人   | 渡辺 延子      |
| 平田 なみ子   | 本間 早苗        | 三宅 哲子    | 矢作 久子   | 渡辺 禮子      |
| 平木 朋世    | 本田 維憲        | 三島 八重子   | 矢作 憲治   | 渡邊 公伸      |
| 廣川 千代子   | マイルト・ジェームス神父 | 水野 眞由美   | 矢田部 公仁子 | 和田 昌子      |
| 藤本 保子    | マチダ ツネアキ     | 道の会      | 矢野 廣美   | 和田 美寿子     |
| 古屋 恵子    | 丸山 陽子        | 峰岸 八重子   | 薬師寺 陽子  |            |
| 古谷 和子    | 丸山 ヒデ子       | 向井 喜代美   | 柳田 和佐   |            |
| 古田 瑩子    | 松井 瞭博        | 村上 京子    | 杠 愛子    | 匿名 21名     |

## 2018「平和を願う対話の旅」のお知らせ

イスラエル、パレスチナを訪ねて、聖地と世界の平和を考えるツアー「平和を願う対話の旅」、2018年も実施!

支援者・里親の皆さまのご参加をとくに歓迎いたします。日本の若者とともに、皆さんが支援して下さっている子どもたちに会いにいらっしやいませんか?

### 【プログラム】

エルサレム、ベツレヘム、テルアビブで、現地の子どもたち、青年たちと交流します。学校や各種施設を訪問、難民キャンプ、分離の壁や検問所の見学、死海観光など盛りだくさん、学生は各地でホームステイも体験します。(詳細はただいま企画中)

日 時：2018年3月(12日間を予定)

参加費：約350,000円(おとな) 約290,000円(学生)

お申込み期限：2018年1月上旬



ご希望の方はなるべく早くご連絡ください。  
お問合せは当法人事務局へ

TEL 03-6908-6571

090-6538-3255

E-mail [ispalejpn@gmail.com](mailto:ispalejpn@gmail.com)





「平和の架け橋  
in ヒロシマ」  
プロジェクトから

◀ ミュージカル「I PRAY」に出演した子どもたちやスタッフとともに。



▲被爆者の体験を英語で聴く。(外国人のために広島市が主催)



▲広島若者と交流のひとつ。和やかな会話がこぼれる。



▲広島女学院大学での「平和の祈り」の中でパイプオルガンを演奏するヤクープ・ガザウィ。



◀ みんな揃って朝食。「今日も一日、はりきって！」カトリック観音町教会にて。

みんな笑顔！ 聖地の子どもたち



支援先の学校にて



▲テラ・サンクタ スクール (エルサレム) でお弁当の時間。



▲聖ヨゼフ学院 (エルサレム) の授業風景。

写真撮影 浅野 耕二、井上弘子